

One Point

ワンポイント

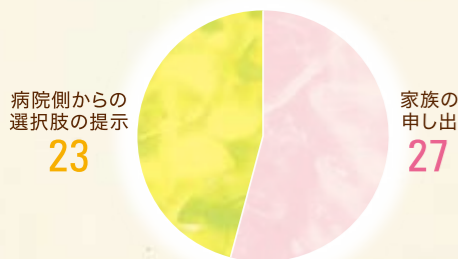
2010年7月17日に、改正臓器移植法が全面施行されました。脳死下でのご提供は、2009年は1年間で7例でしたが、2010年は32例、2011年は8月末現在で29例となっており、法律が改正されたことにより、脳死下でのご提供は増えました。改正法施行後2011年8月末までに行われた脳死下での臓器提供では、本人の書面による意思表示がなく、ご家族が承諾をした症例は50例、ご本人の書面での意思表示があった症例は7例でした。また、改正法施行後50例の臓器提供のきっかけは、家族の申し出が27例(54%)、病院側からの選択肢の提示が23例(46%)でした。万が一の時、ご家族が決断に迷わないためにも、日頃から臓器提供についてよく話し合い、意思を表示しておくことが大切です。

〈脳死下での臓器提供者数の推移〉※11年は1～8月

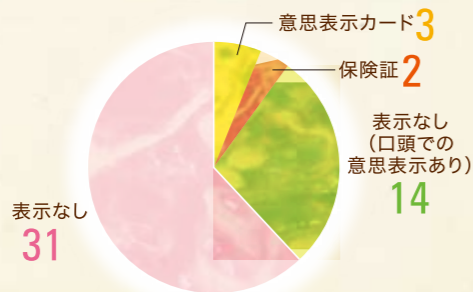


〈改正法施行後の脳死下臓器提供〉

提供のきっかけ



本人の意思表示



北乃きいは、
意思表示をしています。

2011年度ACジャパンの支援キャンペーンポスターです。女優の北乃きいさんが、自分の意思を家族や大切な人に伝え、意思を表示しようと呼びかけています。北乃きいさんは、以前から臓器提供意思表示カードを持っているそうです。ポスターの掲示にご協力いただける方は、下記までお知らせください。



携帯やパソコンから 臓器提供の意思を登録しましょう!

ホームページ <http://www.jotnw.or.jp>
モバイルサイト <http://www.jotnw.or.jp/m>

パソコン、携帯電話から臓器提供に関する意思の登録が可能です。登録後、IDの入った登録カードが発行され、本登録が完了すると、臓器提供の際に本人意思を確認する対象となります。



臓器提供に関するお問い合わせ先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-5-16 晩翠ビル3階

携帯電話からは

☎0120-78-1069 ☎03-3502-2071

<http://www.jotnw.or.jp> にもさまざまな情報が掲載されています。



<http://www.jotnw.or.jp/m>

JOTNW (社) 日本臓器移植ネットワーク

臓器を提供してもよいという人(ドナー)やその家族の意思を生かし、臓器を提供してもらいたいという人(レシピエント)に最善の方法で臓器が贈られるように橋渡しをする日本で唯一の組織です。

●医療機関の皆様へ

脳死後でも心停止後でも、ご本人の意思が不明な場合、ご家族の承諾で臓器が提供できるようになりました。ドナー情報には、24時間対応しております。ご本人の臓器提供を希望する意思表示があるか、ご本人の意思が不明な場合に、ご家族が臓器提供について説明を聴くことを希望されましたら、下記フリーダイヤルにてお知らせください。

ドナー情報用全国共通連絡先 ☎0120-22-0149



あのときの経験が
私の進路を変えました

今では人の命に関わる
仕事をしています。

～突然の連絡～

5時間前とは別人のような母～

高校卒業を間近にしていた私は校内のプールで趣味の水泳をしていましたので何件も着信が入っていたことに気づきませんでした。何時間か経って、携帯電話を確認したところ、録音が入っていました。「お母さんが病院に運ばれました、至急〇〇病院に向かってください」その番号に折り返した後、病院に向かいました。向かう途中、何か大袈裟に言っているだけで、本当は特に大変なことではないだろうと考えていました。母はこれまで大きな病気などしたことはなかったからです。健康診断も毎年行っていました。

病院は大きな病院でした。父に連絡を取り、院内に入りました。その険しい表情で何かを覚悟しなければいけないと感じました。母と会いました。時間にして、およそ5時間ぶりの再会だったと思います。そこには5時間前に自転車に乗っていた人とはまるで違う人が横たわっているような感覚でした。しかし、いろいろな管やモニターにつながっていたのはまぎれもなく母でした。くも膜下出血と診断されました。

母は私に影響され、趣味で近隣のスイミングスクールに通っていました。突然プールの中でコースロープにもたれかかるように倒れたそうです。

私は感じました、これは助からないと。一人になりたいくなって、そして今までで一番泣きました。どれくらいの時が経ったのか分かりません。遅れてきた叔父が私を見つけて言いました。「お前がしっかりしないでどうするんだ」と。

私はその言葉で冷静さを取り戻したと思います。私は長男で、妹がいます。母方の祖母もいましたし、母の妹もいます。現状を受け止めなければいけません。父は一切私の前では涙を見せませんでした。自分はしっかりして、ちゃんと見送らなければいけない。祖母を支えなければいけない。



母が愛用していた時計

～「何かあったら、全て使ってくれていい」～

医師から今の状態の説明を父と祖母が受けました。脳死という状態でした。臓器提供の話をお父さんが申し出たそうです。臓器の提供をするときには専門の移植コーディネーターという人から話を聞くことができるので、父は話だけでも聞いてみようと考えたようです。父から同席するかと聞かれました。私は話を聞くことを希望しました。

正午を過ぎたころだったと思います。父、祖母、叔母、そして私は静かな部屋に案内されました。そこには、移植コーディネーターの方が2人おられました。詳しく臓器提供の説明をしていただきました。

私のような高校生にも質問はないですかと聞かれました。私も質問をしました。その後、コーディネーターの方は一度退席され、家族で話す時間が設けられました。

私の母は医療従事者でした。医療番組も多くテレビで見っていました。臓器移植の番組も見ていました。「何かあったら、全て使ってくれていい」と番組を見ながら言っていたことを父と私は思い出していました。今振り返ってあのとき、家族の中でどういったやり取りがあったのか詳しいことは覚えていません。

私たちは心停止後の左右の腎臓提供の承諾をしました。コーディネーターの方には何度も「摘出手術の前なら提供をやめることはいつでもできる」と聞きました。しかし、少なくとも私は臓器提供が母の意思であると思っていたので、やめることをあまり考えませんでした。

翌日、夜亡くなりました。入院して3日目のことです。腎臓の機能も悪くなってきていて、提供は難しいかというところでぎりぎりだと聞きました。

祖母と妹を皆で支え、手術室へ母を送り出しました。娘を亡くした祖母、姉を亡くした叔母、母を亡くした私と妹、そして妻を亡くした父。それぞれが何を思い、そして母を送り出したかは分かりません。ただその時の祖母の姿を私は一生忘れないと思います。



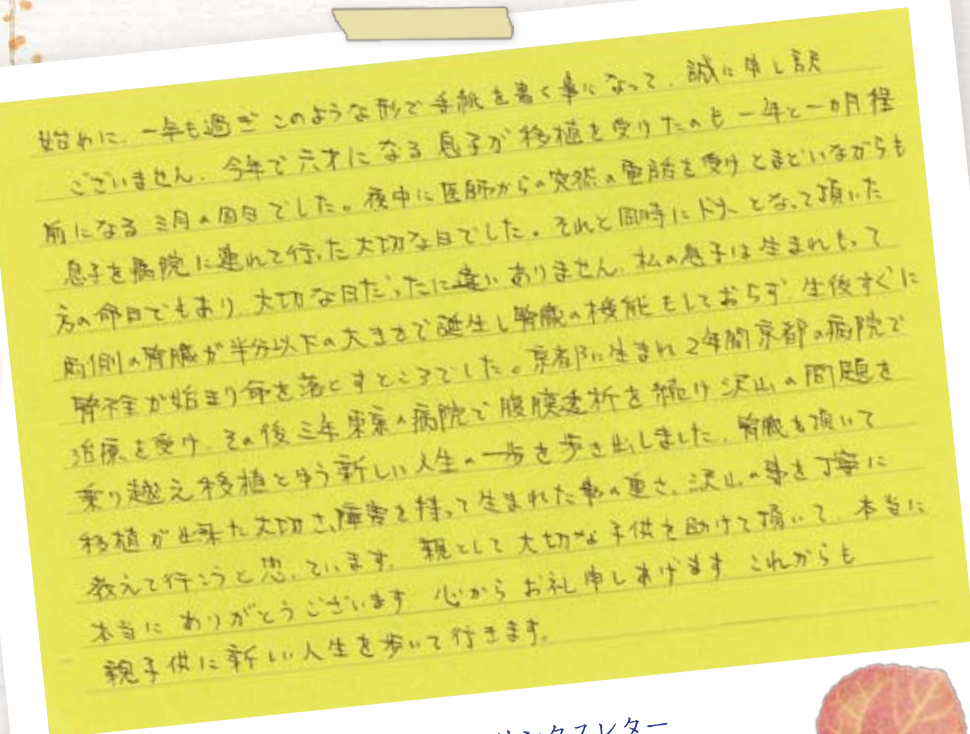
母の意思が書かれていたカード

～その後～

母よりも少し年上の方と、10歳未満のお子さんが移植を受けたそうです。「移植を受けられた方は、順調に回復しました」とコーディネーターの方から伺いました。移植されたお子さんの親御さんからサンクスレターも受け取りました。いつでも見ることができるようになっています。

葬儀から数日後、家を片付けていたときに、黄色い意思表示カードが見つかりました。臓器提供しますと書かれたそのカードを見つけたとき、私たちは少し救われる気持ちになったのを覚えています。

あれから何年も経過しましたが、あのときの経験が私の進路を変えました。今では人の命に関わる仕事をしています。



受け取ったサンクスレター